モンテッソーリ教育
教師養成通信教育講座

公益財団法人　才能開発教育研究財団
日本モンテッソーリ教育綜合研究所／教師養成センター

1.「モンテッソーリ教育　教師養成通信教育講座」…… 2

2.モンテッソーリ教育　教師養成通信教育講座概要 …… 3

●受講開始までの流れ
●履修に関して
・履修のしくみ
・単位制ースクーリング／レポート
・受講生マイページとメール配信サービス
・受講通信
・卒業
・資格試験
・休学／退学
●３歳～６歳コース／０歳～３歳コース
・コース概要
・履修年限
・履修科目一覧
・履修科目について
（理論科目／実践科目）

3.組織について ……12
・公益財団法人　才能開発教育研究財団
・日本モンテッソーリ教育綜合研究所

1 「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」

日本モンテッソーリ教育綜合研究所は、1976年に日本で初めて「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」を設立しました。
モンテッソーリ教育は、マリア・モンテッソーリが科学的な視点から『子どもの家』の子どもたちをつぶさに観察・考察し、試行錯誤を繰り返しながら生み出された教育法です。モンテッソーリが着目したのは①「子どもを観察する」、②「教育の主体は子どもである」という点にありました。そこから導き出された基本的な考え方は、子どもは生まれながらに「自己教育力」を持ち、自然から与えられた設計図に基づいて、おのずから成長・発達する存在だとしています。したがって大人(教師)にできることは「さまざまな経験が可能なように子どもを取り巻く『環境』を整え、成長・発達できるように『自由』を保障することで、『すでに始まっている成長という仕事を助ける』ことだけである」と述べています。
このようなモンテッソーリの教育に関する考え方に共鳴・賛同した当研究所は、日本における幼児教育のさらなる拡充と普及をめざしてきました。その結果、従来にはなかった、学ぶにあたって時と場所を選ばない「通信教育」という方法を採り入れることになったのです。

マリア・モンテッソーリの略歴

1870年　8月31日、イタリア中部アンコーナ近郊に生まれる。
1871年　[イタリア、国家統一完成]
1886年　国立レオナルド・ダ・ビンチ工科大学入学。
1890年　ローマ大学入学(92年、医学部へ進学)。
1896年　女性としてローマ大学最初の医学博士号を取得。
1897年　ローマ大学医学部附属精神病院助手になる。
1901年　ローマ大学で心理学を学ぶ。
1904年　ローマ大学教師養成コースで教育人類学を講義。
1907年　「子どもの家」を開設。
1909年　第1回国際モンテッソーリ教師養成コース開催。
『「子どもの家」の幼児教育に適用された科学的教育学の方法』(モンテッソーリ・メソッド)を出版。
1913年　初めてアメリカに渡り、講演旅行をする。
1914年　[第一次世界大戦勃発〜1918]
1915年　スペインのバルセロナに移住。
1922年　[ムッソリーニが政権に就く]
1936年　オランダのラーレンに移住。
[スペイン内乱起こる〜1939]
1937年　「平和のための教育」を講演。
1939年　インド訪問。以後7年間滞在。
その間に『幼児の秘密』『吸収する心』などを著す。
[第二次世界大戦勃発〜1945]
1951年　第9回国際モンテッソーリ大会で講演。
1952年　5月6日、オランダで死去。

財団法人当研究所小冊子より抜粋・作成

2

モンテッソーリ教育
教師養成通信教育講座概要

学びの意志＝学びの場になる「通信教育」

モンテッソーリ教育を学びたい人にとり、通信教育というスタイルは場所を選ばない有効な学習方法です。国内外を問わず受け入れる画期的なシステムに賛同が集まり、本通信教育講座の門戸を叩いた方は 4000名を超えています。受講生も中国、アメリカ、ヨーロッパ、中近東等、さまざまな国々から参加されています。幼稚園や保育園といった現場のみならず、自らの子育てにも活用したいと考える受講生、卒業生の方々により、日本および世界各地でその力が発揮されています。

「モンテッソーリ教育」を学ぶ2つのコース

当研究所では、2 つのコース編成にして、皆さんにモンテッソーリ教育をお伝えしていきます。

3歳～6歳コース	0歳～3歳コース
マリア・モンテッソーリが考案した教育法に基づいた3～6歳児のコース（1976 年に開講。当研究所においては 40 余年の歴史があります）	マリア・モンテッソーリの遺志を受け継いだ人々により開発された教育法に、最新の赤ちゃん学、脳科学の情報を加えた乳幼児コース(2007 年に開講)

スクーリングのようす

広がる「モンテッソーリ教育」普及への取り組み

本通信教育講座は、郵便の届く地域で、かつ受講資格を満たしていれば、どこにいても受講できるという、40年余にわたって培われた学びのスタイルを現在も続けています。
2011年4月、財団法人「才能開発教育研究財団」は公益財団法人「才能開発教育研究財団」へと移行しました。事業の一部である当研究所は、今後もモンテッソーリ教育を学ぼうと希望されている方々を全力でサポートし、その方々に連なる未来をつくる子どもたちを支援し続けます。(※公益財団法人「才能開発教育研究財団」に関しては 12 ページをご参照ください)

受講開始までの流れ

12月

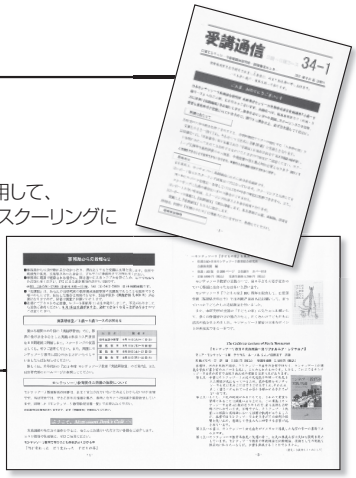
●出願準備
「募集要項」・「講座案内」ダウンロード

1月〜3月

●Web出願（インターネット出願）
●入学手続金のお支払い
●入学許可（ID・パスワード発行）
●受講証の送付
●「受講の手引き」発行

4月

●テキストの送付
●学習開始
※お手元に届いた教材などを利用して、レポート提出や8月に行われるスクーリングに備えるとよいでしょう。
●『受講通信』4月号発行



5月〜

●7月後半より
レポート科目出題開始
（第１回目のレポート提出期限は８月末の予定です）

テキスト
実践５科目のテキスト（３歳〜６歳コース）。詳細な説明とともにイラストを用いて、独習するにあたっても「提示」に関する理解をいっそう深める目的で作られています。

履修に関して

履修のしくみ

入学許可
↓
自宅学習
↓
スクーリング出席　※８月初旬の８日間
↓
レポート提出・合格　※レポートは科目ごとに提出期限が定められています。
↓
単位取得
↓
卒業
↓
資格試験受験（希望者のみ）
↓
資格取得

単位制

本講座では、「単位制」をとっています。このシステムは、スクーリング出席と、レポート提出を同一年度内に行っていただくことにより初めて単位取得ができるものです。科目によっては、スクーリング出席のみで単位取得となるものもあります。レポートの提出はスクーリング直後から始まります。

スクーリング出席 → 単位取得

スクーリング出席 ＋ レポート提出・合格 → 単位取得

スクーリング

毎年８月初旬の８日間(朝９時20分から16時45分まで、1日４コマ各90分を基本とする)に渡って行われます。実践科目に関しては、それぞれの教具がどのような構造をもっているか、それがモンテッソーリの理論とどうつながっているかを意識し、各科目とも、「導入⇒提示⇒演習⇒自主練習」の流れで進められます。理論科目に関しては、各分野の専門家を講師に招き、講義を受けます。

※スクーリング期間中の託児所などは設置しておりません。

▲スクーリングの受講風景▶

レポート

該当月に、『受講通信』にて課題が出題されます。当センターが配付したテキストや必読図書、その他文献などを参考に作成し、期限までに提出します。(レポートの作成・提出は研究所ホームページの「受講生マイページ」より行います。)レポートは担当講師により添削･採点して返却されます。レポートは 60 点以上を合格、それ未満を不合格とし、不合格者は再提出となります。添削されたレポートには、講師からのアドバイスやコメント、考案のポイントなどが書き込まれている場合もありますので、保育の現場やご家庭において、日々の保育の際参考にされ、役立ててください。

受講生マイページとメール配信サービス

当研究所のホームページに、受講生の皆さん一人ひとりに受講生マイページを開設いたします。受講生マイページにログインしていただくと、『受講通信』や動画等のコンテンツをネット上で見ることができます。また、レポートの作成・提出をしたり、スクーリングの出欠状況やレポートの提出状況・点数などをご自身で確認することができます。
メール配信サービスでは、『受講通信』の掲載日やレポートの締切日などをお知らせいたします。

『受講通信』

本講座は、通信教育講座という特性から、働きながら学べる、遠方からでも受講できる、という利点があります。受講生は広く国内外におよび、さまざまな職種、年齢の方々が受講されています。反面、受講される方々は孤独な学習を強いられます。教師養成センターでは、Web を通して毎月下旬（目安）に（7月発行2回、8月発行無）『受講通信』を発行し、受講生の皆さんに最新で、きめ細かなサポートができるよう努めています。

『受講通信』の内容

①レポート課題の出題および提出締切日を掲載
②レポート課題の講評を掲載
③履修等に関わる各種お知らせや情報の掲載
④その他、実践研修室の開催予定や図書の紹介等

①郵便が届くことと②インターネットができる環境のあること（印刷も含む）が前提条件である通信教育は、通学スタイルの学びとは異なり、ご自身でのスケジュール管理等を求められる学習スタイルです。各月の『受講通信』にはレポートやスクーリング等学習に関わるスケジュールや、重要事項が随時掲載されます。

卒業

在籍期間内にすべての単位を取得した方は卒業となります。卒業される方には、３月に行われる卒業式で、卒業証書が授与されます。

資格試験

当研究所では、本通信教育講座卒業または卒業見込の者を対象に資格試験を行っています。この試験はモンテッソーリ教師としての資質・技能を判断する試験です。合格者には当研究所所長名で資格証が発行されます。この「資格証」は、当研究所が独自に発行するものです。公的な保育士資格・幼稚園教師資格とは性格が異なります。

●受験資格者：当研究所通信教育講座卒業およびその年度の卒業見込みの者。
●試験内容：筆記試験と実技試験があり、それぞれ１日ずつ、計２日間を要します。筆記試験は都内の会場で一斉に行います。実技試験は一斉ではなく、個人面接の形をとり、口頭試問と教具提示の２種類の方法で行います。受験日時は事務局が指定します。
●試験時期：毎年３月下旬

休学／退学

●休学：一時的に受講が不可能になった場合は、休学制度を利用することができます。期間は4月から翌年3月までの1年を基本とします。休学中は受講料が免除されますが、履修年限以降の休学の場合は、学籍更新時に在籍料がかかります。在籍料以外の学費は、復学後に納入します。復学は毎年度始め(4月)に限定されます。
●退学：以下の場合には退学となります。退学になると、あらゆる既得権利が消失します。またすでに納めた費用については返金されません。

①何らかの理由で在籍期間中に全教科を履修できない場合
②納入すべき学費を正当な理由なく遅延あるいは不払いの場合
③住所変更や名前の変更などの連絡がなく、郵便の受け渡しが不可能となった場合
④受講生側の事情で、受講生マイページへのログイン・閲覧が不可能になり履修困難となった場合

3歳～6歳コース

モンテッソーリ教育の基本的な考え方をまとめると、以下のようになります。

●子どもは「発達」を遂げるために生まれてくる
●子どもには自分で発達を成し遂げていく「自己教育力」が存在する
●自己教育力は具体的には「敏感期」として現れる
●敏感期に見合った「環境」を整備する
●環境と子どもが主体的に交われるように「提示」を充実する
●子どもに「集中現象」が現れるように導く

３歳～６歳は「意識の芽生え」の段階にあります。前段階の０歳～３歳は「無意識の吸収精神」によって環境から吸収したさまざまな事柄を意識していく時期です。この３歳～６歳という時期には運動の敏感期、感覚の敏感期、言語の敏感期、数の敏感期、文化の敏感期等が現れます。そして、それぞれの敏感期に対応する環境として『日常生活の練習』『感覚教育』『言語教育』『算数教育』『文化教育』がモンテッソーリ教育の５分野として位置づけられています。

３歳～６歳コースの講義は理論と実践の２本柱です。物的環境としての用具、教具類は０歳～３歳の子どもが対象とする物よりも圧倒的に数が多くなります。また、使い方を行ってみせる「提示」もこの段階の子どもの発達段階に合わせ、段階を踏みながら複雑で手順の多いものになっていきます。したがって、講義内容は理論講義よりも実践講義の比重が高くなります。また、『文化教育』の実践が体系的に紹介される点も当コースの特徴です。

履修年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
２年	４年

カリキュラムは２年間ですが、最長４年間在籍できます。

履修科目一覧

分野		１年次履修科目	２年次履修科目
A. 理論科目： モンテッソーリ教育の 土台としての理論		・教育学 ・心理学	・医学 ・発達障害概論
B. 理論科目： モンテッソーリ教育の 理論	総論	・マリア・モンテッソーリ　その生涯と業績 ・モンテッソーリ教育概論Ⅰ	・モンテッソーリ教育概論Ⅱ
	各論	・児童観 ・実践理論	・自由論 ・教師論
C. 実践科目： 方法論		・日常生活の練習 ・感覚教育	・言語教育 ・算数教育 ・文化教育

＊平成２９年度現在の履修科目です

履修科目について

理論科目

「理論科目」と「実践科目」により構成される本通信教育講座は、モンテッソーリ教育を実践するうえで必要とされる「教育学」「心理学」「医学」「発達障害概論」等を理論科目として扱っています。これらの科目が目的とするところは、幼児教育を実践するうえで必要とされる幅広い視野を養い、学びの基盤となる土台づくりを行うことにあります。また、「モンテッソーリ教育概論」では、モンテッソーリの考える生命観の視点から幼児教育を考え、社会性や道徳・平和へと理解を深めていきます。

実践科目

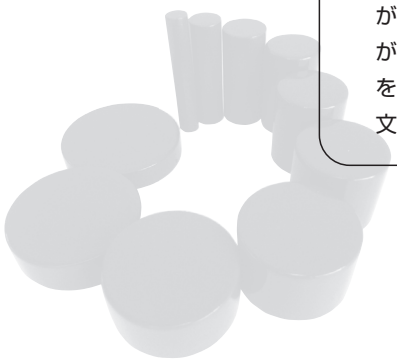
３歳～６歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

日常生活の練習　（１年次履修）

『日常生活の練習』の目的は、運動の完成です。幼児は大人のすることを何でも真似したがります。その「模倣期」と「運動の敏感期」とを利用して、自分の身体を意志どおりにコントロールする能力を身につける場が『日常生活の練習』です。「子どもはできないのではなく、やり方を知らないのだ」という考え方に立って、正確にやり方を伝えます。自分のことが自分でできるようになった子どもは、「自立」に向けて大きな一歩を踏み出します。具体的には、歩く、はさみで切る、コップに水を注ぐ、ボタンをかける、室内を掃く、洗濯をするなど、実生活と密接に関連する多くの活動があります。

感覚教育　（１年次履修）

人間は外界の情報を感覚器官によって収集します。３歳過ぎの子どもは、感覚器官がほぼ発達を遂げ、さまざまな感覚刺激に対して敏感です。小さな物を見つけたり、かすかな音を聞きつけたり、微妙な匂いや味を区別したりします。その「感覚の敏感期」を利用して、意識して感覚器官を使って練習するのが『感覚教育』です。練習によって感覚器官が洗練されれば、外界からより精確でバラエティに豊んだ情報を収集できるようになり、知性や情緒が発達します。
また、感覚教具には、「対にする」「段階づける」「分類する」という、三つの操作が位置づけられています。このことによって、まさに脳の前頭葉が働き始め、知性が芽生え始めた時期の子どもは「ものを観察する能力」と「ものを考える方法」とを身につけることになります。モンテッソーリ教育では、『感覚教育』は『言語・算数・文化教育』という知的教育分野の基礎となる大切な役割を担っています。



言語教育　（2年次履修）

子どもは最初からことばを獲得して誕生してくるわけではありません。子どもは「言語の敏感期」の時期に自分の周囲で話されていることばを母語として獲得します。ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』は、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細やかなステップを踏んで、語彙を豊かにすることから始まり、最終的には文法にまで至ります。文字を書くこともまた、『日常生活の練習』や『感覚教育』で養った手や腕をコントロールする力を利用しながら、身につくような工夫がされています。したがって子どもは、文字に興味をもった時期に知らず知らずのうちに文字を書いたり読めるようになるのです。

算数教育　（2年次履修）

車のナンバープレートの数字や物の大きさ、量に興味を示す「数の敏感期」が幼児期には表れます。そのときに数に関する教具の環境があれば、子どもは容易に吸収しますが、モンテッソーリ教育の算数教具はただ単に数を唱えるものではなく、数量が具体物で表され、手で扱えるようになっています。そしてそれらは、感覚教具からの継続として準備されています。既知から未知へ、子どもはスムーズに導かれます。四則演算でいえば、実際に 1000 個のビーズからなる重い立方体から、色と数字で数量を表す切手という半抽象の段階を経て、暗算という完全な抽象の段階へと無理なく至ります。

文化教育　（2年次履修）

『文化教育』は、「ことば」と「数」以外の子どもの興味を対象とした幅広い分野です。歴史、地理、地学、動・植物など、小学校の社会科、理科に相当する分野を扱います。子どもの知りたいという要求に応え、興味の種を可能な限り多く蒔くことを目的とします。ほかの4分野が統合された総合学習としても考えられます。

0歳～3歳コース

０歳～３歳は長い一生の出発点であり、この後に続く何十年という人生の基盤となる時期です。そのうえこの時期は無意識、つまり記憶には残りません。しかし、この記憶に残らない時期が人生の中でもっとも吸収力の強い時期であり、その後何十年かけても達成できないようなさまざまな事柄を、いとも簡単に、成し遂げていくことができる時期ともいえます。
この時期の発達の課題は、「できるようになること」です。たとえば一点を注視できる、首が据わる、はいはいができる、歩けるようになる、しゃべることができる等です。この発達の課題は、あらかじめ時期と順番がプログラムされたもの、つまり設計図として子どもの中に内在します。これは、私たち大人が教え込み、訓練して発達を遂げさせるのではなく、子ども自身ができるようになる力=「自己教育力」を環境に注ぎ込むことで、発達は成されていきます。
この肉体・精神の両面における発達が健やかに成されていくために基盤となるのが、子どもにとっては私たち人間の社会に「適応」していくことです。「適応」は０歳～３歳コースのキーワードといってもよいでしょう。適応を可能にする条件として、私たち大人は「子どもを受容すること」が重要になり、その結果子どもには「基本的信頼感」、つまり人と結びつく力が築かれるのです。
０歳～３歳コースの講義は理論と実践の２本柱で構成され、講義内容は、子どもや子どもの発達に関する知識を伝える理論講義が多くなります。理論講義の背景に位置づけられるのは、モンテッソーリ教育の考えと現代科学で証明された事実に依拠します。

履修年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
１年	３年

カリキュラムは１年間ですが、最長３年間在籍できます。

履修科目一覧

分　野	履修科目
A. 理論科目：モンテッソーリ教育の土台としての理論	・医学　・小児保健　・生命の維持
B. 理論科目：モンテッソーリ教育の理論	・マリア・モンテッソーリ　その生涯と業績　・実践理論 ・０歳から３歳の発達　・運動論　・環境論　・大人の役割 ・音楽　・美術　・３歳以降のモンテッソーリ教育
C. 実践科目：方法論	・粗大運動の活動　・微細運動の活動　・日常生活の練習 ・言語教育　・感覚教育

＊平成２９年度現在の履修科目です

履修科目について

理論科目

「理論科目」では、０歳から３歳の子どもの精神・肉体両面の発達に関する知識、また、この時期の子どもに関わる大人の役割などについて学びます。０歳から３歳のモンテッソーリ教育がそれ以降どのように展開していくのかについての「３歳以降のモンテッソーリ教育」の授業もあります。モンテッソーリの考え方だけでなく、現代科学で証明されてきた事実を基にした理論（「小児保健」、「医学」等）を学び、乳幼児教育の実践に必要な幅広い視野を養います。

実践科目

０歳～３歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

粗大運動の活動

運動の獲得は、子どもの成長の方向である自立への一歩です。ここでいう「運動」とは、跳び箱や鉄棒などの体育的なものをさすのではなく、歩く、階段の昇り降り等の全身を用いた大きな動きをさします。ずり這いから歩行までの運動の獲得を援助します。

微細運動の活動

運動の獲得は、子どもの成長の方向である自立への一歩です。ここでは主に、手、指を使った運動をさします。握る、落とす、たたくなどの動きを通して微細運動の獲得を促します。

日常生活の練習

粗大運動と微細運動が複合的に合わさった活動です。共同体の一員として日常の活動に参加させることにより、環境への適応を促していきます。着衣枠、観葉植物の世話などの活動が含まれます。

言語教育

ことばの獲得は、人間のＤＮＡに組み込まれている本能です。子どもは「話しことばの敏感期」にしたがって、自分の周囲で話されている母語を獲得します。しかし、ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』では、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細かなステップを用意し、豊かな語彙を養います。

感覚教育

子どもには、無意識に環境をまるごと吸収する精神が存在します。吸収する精神によってため込んださまざまな感覚的な印象は、感覚教具に触れることによって整理されていきます。「感覚の敏感期」を考慮し、発達段階や興味に応じた感覚教具に触れることにより、感覚の洗練を促します。また、感覚教具の操作方法は、子どもの知性の覚醒を促します。

3

組織について

公益財団法人　才能開発教育研究財団

千鳥町　財団本部ビル

財団法人「才能開発教育研究財団」は、2011年４月１日付で、公益財団法人「才能開発教育研究財団」へと移行しました。当財団の活動すべてが、わが国の教育のさらなる進歩、発展に寄与する社会貢献活動であるとの自覚と自信をもち、財団の事業の一つである「日本モンテッソーリ教育綜合研究所」においては、「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」や附属『子どもの家』等を通じて普及や実践研究等の活動を行っています。
今後も、当財団は新しい幼児教育法の開発や指導者の育成をめざして一層努力し、全国の保育現場に広く情報を提供することを責務と考え、さらなる拡充を図っていきます。

日本モンテッソーリ教育綜合研究所

日本モンテッソーリ教育綜合研究所は、㈱学研ホールディングスが基金を拠出した公益財団法人「才能開発教育研究財団」に属する組織です。1976年「モンテッソーリ教育の考え方とその方法を柱にして研究を進め、その成果を広く日本の教育界に広めていく」ことを目的として発足しました。現在も、「よりよい教育創造」をめざし、活動を続けています。モンテッソーリ教育の普及、子どもたちの健全な育成を目的とし、主に次のような事業を行っています。

- ●教師養成事業…モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座
- ●実践教務事業…附属『子どもの家』
- ●実践研修事業…実践研修室
- ●その他の取り組み…モンテッソーリ関連図書翻訳・出版および斡旋図書の販売、海外のモンテッソーリ教育視察旅行企画、講演活動　ほか

Montessori

公益財団法人　才能開発教育研究財団
日本モンテッソーリ教育綜合研究所
教師養成センター

〒146-0083　東京都大田区千鳥 3-25-5 千鳥町ビル
TEL.03-5741-2270／FAX 03-5482-5999
http://www.sainou.or.jp/